

1 開設候補地の検討状況について

(1) 開設候補地の概要

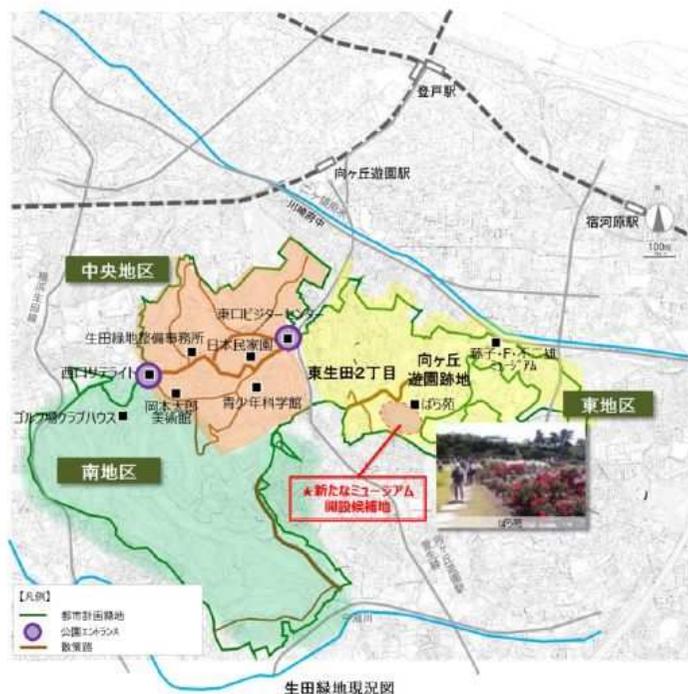
- ・ 開設候補地である「生田緑地ばら苑隣接区域」は、生田緑地東地区に位置し、現在は生田緑地ばら苑開園時の臨時駐車場として使用されている場所（砂利敷きの更地）を中心とした区域であるが、**基本構想で示したとおり、詳細な範囲は定めていない。**（中間報告と記載内容は同一）
- ・ 現在は、民間活力の導入に関する検討や、ばら苑再整備に関する検討などを踏まえ、**生田緑地東地区全体の魅力の最大化に向けた最適な配置を検討している。**

■生田緑地ばら苑隣接区域概要 ※中間報告内容を再掲

所在 : 川崎市多摩区長尾2丁目
 用途地域等 : 第2種住居地域 (200%/60%)
 第3種高度地区 (最高高さ 20m以下)
 生田緑地、都市計画公園

敷地面積 : 約8,600㎡ (砂利敷きの更地部分の概算)
 許容面積 : 建築面積 約5,160㎡、床面積 約17,200㎡
 (総3階の場合の床面積 5,160×3=15,480㎡)

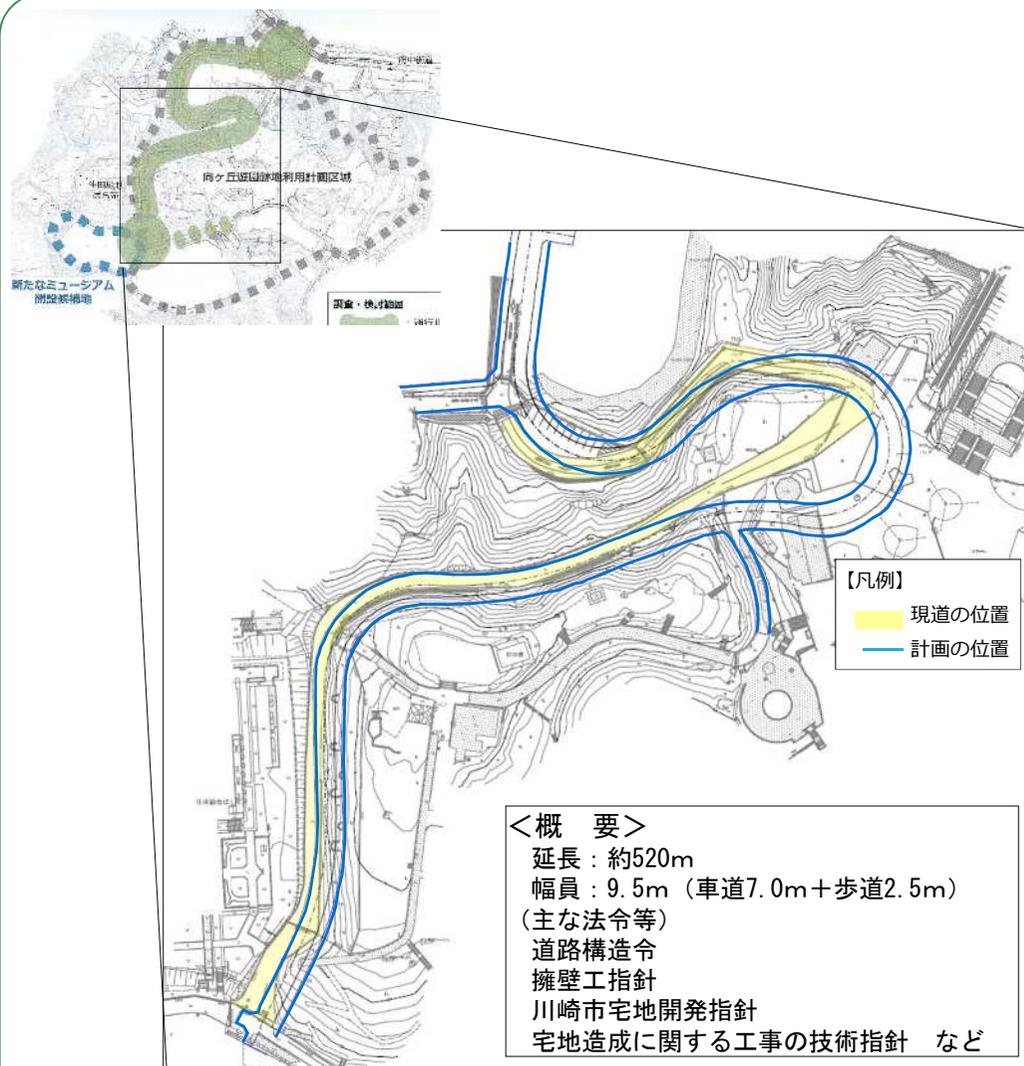
■開設候補地位置図（基本構想再掲）



※ 位置図中の楕円の点線は、開設候補地のおおよその位置を示したものであり、詳細な範囲は今後検討する。

(2) 開設候補地への通行ルート等の調査・検討の状況

- ・ 小田急電鉄と締結した覚書及び基礎調査・検討協定書に基づき、**開設候補地への通行ルート等に係る基礎調査・検討を実施した。**（工期：令和6年5月）
- ・ 基礎調査・検討の結果により、向ヶ丘遊園跡地利用計画の区域内での**通行ルート等の整備が技術的に可能であることが概ね明らかになってきており**、今後の更なる調査・検討等について 小田急電鉄と協議を進めている。



2 施設計画について

(1) 「ミュージアム（拠点施設）」の想定施設規模

※中間報告内容を再掲

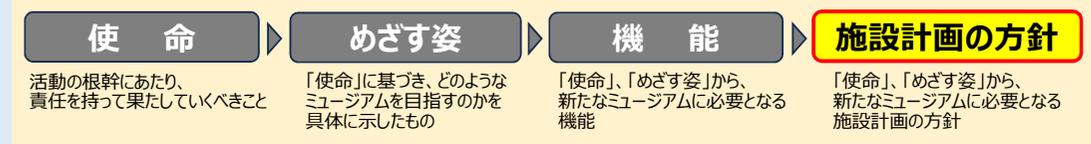
諸室イメージ	想定面積	想定面積等の考え方	【参考】 市民ミュージアム旧施設
収蔵・保管スペース (搬入ヤード、荷解き室、一時保管庫、燻蒸室、収蔵庫、公開型収蔵庫など)	2,900㎡ ～ 3,400㎡	・ 市民ミュージアム収蔵品を引き継ぐものとし、被災収蔵品レスキュー状況や今後の資料収集等を踏まえ、収蔵庫を約2,000㎡～約2,500㎡程度、公開型収蔵庫を約600㎡程度と想定（市民ミュージアム旧施設の収蔵庫は約2,200㎡）。 ※収蔵庫の収蔵量は、収蔵品の大きさ、形状、配置方法、収蔵庫の高さ等によって変動するため、設計を見据えて与件整理を進めていく。	約2,760㎡
調査研究・デジタル化スペース (資料整理室、研究室、デジタル・スタジオなど)	400㎡ ～ 500㎡	・ 効果的・効率的な調査研究ができるスペースや、収蔵品のデジタル化などに対応できるスタジオをイメージ。学芸員ヒアリングや他都市博物館、美術館事例を参考とし、各諸室約50㎡～約200㎡程度として想定。	約680㎡
修復スペース (保存修復室、修復公開スペースなど)	200㎡ ～ 300㎡	・ 被災収蔵品レスキュー状況を踏まえ、紙資料の応急処置などが可能な保存修復室や、修復工程やその結果を公開するスペースなどを各諸室約50㎡～約100㎡程度で想定。	約50㎡
展示スペース (常設展示室、企画展示室、展示準備室など)	1,800㎡ ～ 2,200㎡	・ 常設展示室は、市の通史など博物館系の内容を取り扱う想定。展示の固定化はせず、定期的な入替ができるような構成とする。企画展示室は、巡回展に対応できる規模のもの、常設展示と連動したテーマ展示や実験的な展示がフレキシブルに実施できるようなものなど複数を整備し、用途に応じて連結使用ができるような整備を想定。学芸員ヒアリングや他都市博物館、美術館事例を参考とし、常設展示室は約400～約500㎡程度、企画展示室は合計約1,300㎡～約1,600㎡程度を想定。	約3,740㎡
活動スペース (多目的・イベントスペース、市民活動室、創作スペースなど)	600㎡ ～ 700㎡	・ 多様な市民活動に対応できる多目的スペースや、セミナー・シンポジウム等の開催が可能なイベントスペース、「ことラー」等の活動スペース、気軽にものづくりができる場などをイメージ。学芸員ヒアリングや他都市博物館、美術館事例を参考とし、多目的スペースは約100㎡程度のものを複数整備し、様々な用途での利用ができるよう連結も可能とし、イベントスペースは一定程度の集客や映像上映等を想定し、約250㎡程度を想定。	約3,470㎡ (映像ホール、ミニホール等を含む)
その他バックヤードスペース (会議室、倉庫、事務室、守衛室、機械室など)	1,800㎡ ～ 1,900㎡	・ ミュージアムの運営上、必須となる諸室について、学芸員ヒアリングや他都市博物館、美術館事例等を参考とし、想定面積を設定。	約5,340㎡
ユニバーサル設備スペース (情報コーナー、授乳室、カフェ・レストラン、ショップ、センサリールームなど)	1,800㎡ ～ 2,500㎡	・ 来館者が快適に過ごせるような空間づくりのために必要と考えられる諸室について、学芸員ヒアリングや他都市博物館、美術館事例等を参考とし、想定面積を設定。なお、アンケート等でニーズが高かったカフェ・レストランについては、関連計画の動向も踏まえながら、具体の整備内容を検討していく。	約3,500㎡ (来館者用の通路スペース等を含む)
合 計	9,500㎡ ～ 11,500㎡	※これまでの検討に基づく事業内容案を踏まえて必要と想定される面積であるため、今後の検討や社会状況の変化等により、変動する可能性がある。	約19,540㎡

(2) 施設計画の方針（案）

○基本計画における「施設計画の方針」の位置付け

- ・ 中間報告において整理した博物館・美術館の基本的な機能としての諸室イメージや想定施設規模、施設計画に考慮する要素などから、新たなミュージアムの「使命」及び「めざす姿」の実現に向けて、**施設計画の方針及び各方針の取組**を整理する。

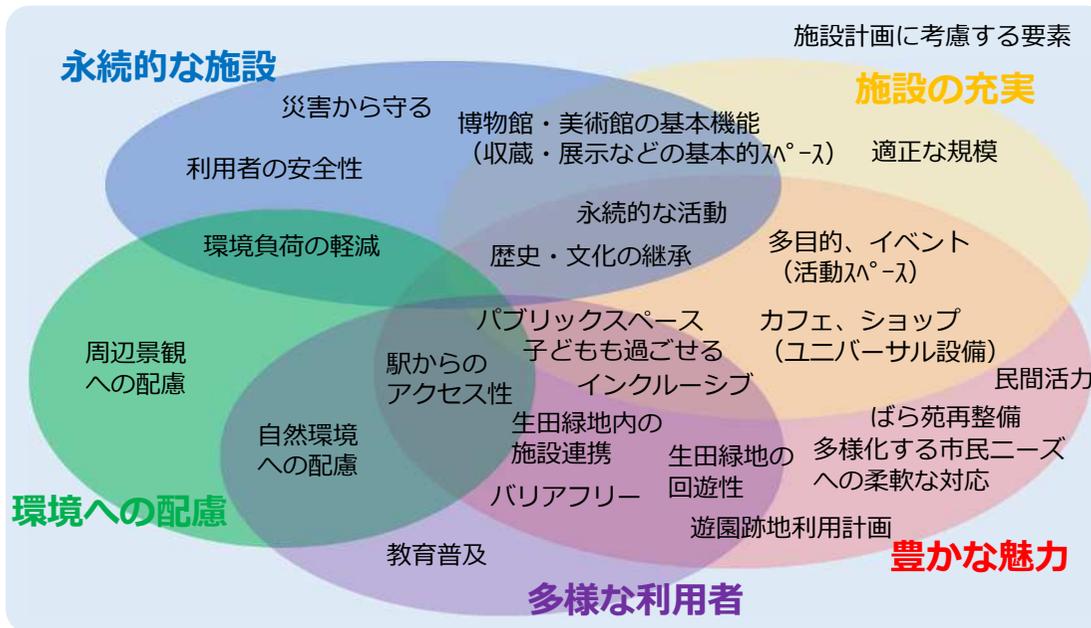
<基本計画における「施設計画の方針」の位置付け>



○施設計画に考慮する要素等を踏まえた方針の整理

- ・ 基本構想、中間報告、関連計画・事業などから施設計画に考慮する要素などを抽出し、**大別される直接的な「施設計画の方針（案）」**及び**魅力を高める「施設整備に併せて取り組むべき事項」**を選定した。
- ・ 今後は、構成する要素の効果発現に向け、方針等に係る具体的な取組イメージを検討する。

<全体イメージ>



整理のイメージ ※方針等の具体的な整理を行う

施設計画の方針（案）

- **「永続的な施設」に関すること**
 - ・ 博物館・美術館としての基本的な機能を有するとともに、災害時でも人々や資料を守り、将来へ歴史・文化を継承する
- **「施設の充実」に関すること**
 - ・ 博物館・美術館としての必要な諸室と適正な規模を確保するとともに、気軽に快適に過ごせる空間づくり
- **「環境への配慮」に関すること**
 - ・ 生田緑地の自然環境や周辺景観へ配慮するとともに、環境負荷の軽減に取り組む
- **「多様な利用者」に関すること**
 - ・ 多様な利用者が快適に利用できる環境づくりや、学びの場として多くの利用者の活動に取り組む
- **「豊かな魅力」に関すること**
 - ・ 民間事業者のノウハウなどの活用も含めた、わくわくする魅力的な空間を創出する

施設整備に併せて取り組むべき事項

- **「アクセス性、回遊性」に関すること**
 - ・ 誰もが利用しやすく、多様な利用者が気軽に来館できるとともに、生田緑地や各施設を楽しく周遊できる環境づくり
- **「周辺施設との連携」に関すること**
 - ・ 近隣のばら苑との一体的な魅力向上の取組や、生田緑地内の文化施設等との連携した魅力づくり